

子供の町 だより

創刊 昭和24年11月
発行 社会福祉法人 子供の町
児童養護施設
子供の町
エンジェルホーム
住所 〒344-0112
埼玉県春日部市
西金野井337
TEL 048-746-0206
FAX 048-746-9215

～この夏に思ったこと～

社会福祉法人 子供の町
理事長 田中 文男

電車に乗っていて、いつも感じることは、ほとんどの人がスマホなどを操作していることだ。自分の下車駅に到着すると「すみません」とか「降ります！」の言葉もなく無言で人々を掻き分けてドアに突き進んでいく。肩が触れても「失礼」とも言わない。それでも操作を止めない人がいるからあきれる。

この頃は手紙を書く人も少なくなった。すべてをメールで済まそうとしている。確かに速くて便利であることは分かるが、人間の心の暖かさまでが伝わらないような気がする。それは私の過ごしてきた時代と違うからかもしれないが・・・

この夏、新聞やテレビで大きく報じられたように、深夜から明け方まで寝屋川駅付近を5時間もの間彷徨していた中学1年生の男女2人がいた。深夜であっても多少の人は通っていたと思う。どうして誰もがそれを不思議と思わな

かったのか、私には分からない。私だったら「どうしたの？」という問い掛けを必ずする。二人にたまたま声を掛けてきた人は、獲物を狙っていた魔物だったというのが最悪だった。被害に遭った子ども達の家庭について単なる興味だけで詮索するよりも、他人のことについて私達はこんなにも無関心になっている現実を反省しなければならない。少しでも「疑問」を感じたなら、昔のように「どうしたの？」という言葉は出すべきだ。それによって虐待や子ども達の非行化を少しは防げると思う。隣にどんな人が住んでいるのか分からない時代であっても、防げる事故・事件は防止しなければならない。老人等の孤独死の記事を見るたびに、「どうして？」と思っているだけでは解決にならない。まずは自分がお節介を行う事が先だと思っている。子どもについては尚更のことだ。

さて、施設で生活している子ども達は大人の声かけを「うざったい」と思ったり「何だよー」と反抗的になる子もいるだろう。しかし本音では「自分だけを見つめていてもらいたい」と思

っている子がほとんどなのも事実だ。「すべての子に平等で」と言っている私なので、それを許せないのが悩みでもある。しかし、どんな時代であっても、助けを必要とする人が沢山いる。私たちはその人たちを見捨ててはいけない。誰かに見守られているだけで、心が暖かさを感じるのが事実だからだ。

間もなく冬、幸せとは暖かさなのだ。心のぬくもりをみなさんと共有したい、分かち合いたい。そして「生きてきてよかったね」と言えるような子どもを育てたい。「この施設で働いて良かった」と職員の方々に言っていただけ施設にしたい。それを割りあげるのが私の任務なのだから……。



～施設長に就任して……～

エンジェルホーム
施設長 安達 雅弘

平成 27 年 4 月 1 日よりエンジェルホーム施設長に就任いたしました、安達雅弘です。

微力ではありますが与えられた職責に誠意をもって努力する所存でありますので、前施設長同様、皆様方のご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

さて、当法人「子供の町」は昨年創立 65 周年を迎えたとともに新たな世代交代の時期にも入りました。急激な時代の変化の中で、児童養護施設にも様々な機能が今後、益々求められるようになることは確かではないでしょうか。そんな状況の中、施設長の任に就いた私が「すべきことは何か」を問うた時に、それは今ある施設の

課題を背負い、将来を見据えて、その布石を作り、次の世代の職員さんに引き継いでいくことがどれだけできるのか、に尽きるのではないかと考えています。私ひとりの力は微々たるものですし、すべてを解決していくことは不可能ですが、課題へのレール作りを一つでも多く作っていくことにリーダーシップをとりつつも、職員と協同しながら成し遂げていくこと、そしてそのプロセスを通して、風通しのいい職場の風土を今ある以上に構築していくこと、が私の使命と責任ではないかと受け止めています。

本当に職員は、児童の様々な問題に日々悪戦苦闘しています。荒れる児童や疲弊してしまう職員の気持ちにより添いながらの施設運営の難しさ、大変さを実感している毎日です。

「往く道 精進にして 忍びて 終り悔いなし」
昨年亡くなられた俳優高倉建さんの座右の銘だったそうです。課題だらけの私にはこんな生き方は到底出来ない、と百も承知しておりますが、あえてそんな思いを傍らに置き、残された限られた子供の町での時を過ごしていけたらと考えております。皆様のお力をお借りし、尽くしていく所存であります。

どうぞよろしくお願い致します。



楽しい夏休み、頑張った夏休み、子ども達の過ごした夏休みを書いてもらいました。また、長い夏休みを支えてくれた職員の皆様、イベントごとにご協力をいただいたボランティアの皆様ありがとうございました。事務長の「子供の町あれこれ」と共にお読みください。

子供の町あれこれ 事務長 根岸 昇

…「ねざっさんいますか？」2人の女の子が応接室に入って来ました。一人は在園中の中学生ですが、他の一人は21才の卒園生でした。高校卒業時に卒園して製本会社に就職、今年で3年目を迎えています。「元気だった？この前来た時はいなかったから…会えて良かった！」と言われ、とても嬉しく思いました。その可愛らしい笑顔は実に幼児の時のままで、愛くるしい瞳を輝かせていました。小学生の頃は子供の町FCの有力選手で高校時代もサッカー部を3年間続けたボーイッシュな面もある子です。彼女が中学生を前にして「仕事ではセクハラもあったし、腹が立ってキレそうな時もあったけど、転職する時に3年続けたということが評価されるから途中で辞めなかったんだ。」と話していたことには大きな成長を感じました。

一昨年には高校在学中の弟が施設不適合で家庭引取りとなり母親・彼女と同居していますが、母親が外国人でもあり三者面談には姉の彼女が出席してきたとのこと。料理も母親が作る料理は味付けが脂っぽくて弟が食べないために、姉が作る事も多いらしい。カレー・カツ丼・肉野菜炒めなど、高校生の弟の為にガッツリ系のメニューが多いと言う。「子供の町にいと何でも出て来るからいいよねー！」と中学生の顔を見て話していました。こういう話しを在園

中の中学生に自然な形で伝えてくれることが、まさに生きたリービングケアなのだと気づきました。有難う！Tちゃん！！



「進学のために」

高3 Nともみ

私の高校生活最後の夏休みの思い出は、ほとんどアルバイトの生活でした。

これから先、進学するために少しでも貯金して、自分が進学の時困らないために遊ぶことよりアルバイトの方を優先しました。もっと友達と遊ぶべきなのかと思いましたが、自分を甘やかしたらきっと遊ぶことに夢中になってしまうので、なるべく遊ぶことは控えました。

控える事ができたのは高校の部活に入ったことでした。高校では部活に入っていたので遊ぶ時間もそんなになく、部活の仲間と遊ぶことしか慣れていませんでした。そのおかげでアルバイトに専念できました。

部活に入ったから遊ぶ時間がなくなると皆は考えると思いますが、私は高校の部活で礼儀や上下関係を学びました。アルバイトに入ってから礼儀など必要になってくるので部活に入っていてよかったと思いました。この経験を進学やアルバイトで生かします。

子供の街あれこれ

8月23日子供の町「夏祭り」を行いました。夕方から時折小雨が降る中、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしました。ダンスクラブ発表・K君のオカリナ演奏・職員のと太鼓演奏・卓球大会・文教大、共栄大学生による新しいゲーム企画も好評でした。3年目を迎えた春日部市内の外国人親睦団体「グローバルファミリー」の人たちの参加も6か国約20名に増えました。韓国・タイ・インドネシア・パキスタン・ノルウェー・中国などから来て春日部市内・杉戸町等に居住している人たちです。

韓国チジミ・パキスタンカレー・イランのジャガイモ料理はとても美味しかったです。模擬店で調理に携わったボランティアの方には事前に検便(赤痢菌・サルモネラ・O157)を実施しています。今回は16名全員が陰性(異状なし)でした。

男性職員が中心になり実行委員の中高生たちが準備・売り子・片付け・掃除等一生懸命協力してくれました。文教大学・共栄大学ボランティアの協力も大変大きな支えです。

「夏の思い出」

小6 H・しゅんすけ

ぼくが夏休みに心に残ったことは二つあります。まず一つ目は、夏季活動で海に行ったことです。海は久しぶりだったので少しこわかったけれど、海はきれいだなと思いました。夜になって、みんなで浜辺で花火をしました。その中でも、線香花火と打ち上げ花火が思い出に残りました。

二つ目の思い出は、子供の町の夏祭りです。

夏まつりでは、ダンスクラブの発表をしました。発表のために一生けん命練習したので、本番では「上手にできたね。」とほめられたことがうれしかったです。

たくさんのボランティアさんが来てくれて、ゲームなどもして遊びました。パチンコゲームでは特賞が当たりうれしかったです。夏休みが終わってしまうのは、少しさみしいけれど、2学期からは、勉強や運動会をがんばりたいと思います。



中2 S・かずき

僕の夏休みの思い出は、なんといってもソフトボールです。僕は小学4年生からソフトボールをやっています。朝早く起きて、練習をさぼらず頑張ってきたから上手になれたと思います。

だけど中学生になり、部活の練習がいそがしくなると、ソフトボールの練習に少ししか参加することができなくなり、久々に練習に出てみると、僕より学年の下の子がすごく上手になっていてビックリしました。

今年の目標は、雀幸園に勝つためにやってきました。バッティング中心の練習でやってきて、みんなが打てるようになって良かったです。今年の大会では、一回戦は上里学園に9対1で勝ち、ついに雀幸園と戦う時がきて、何と1対0で勝利することができて目標を達成して良かったです。結果は準優勝だけど次は優勝したいです。



高2 K・こうき

ぼくの夏休みの一番の思い出は部活です。夏休み一日も休まず部活をしました。きつかったりもしたけど、大会では試合に出してもらい活躍しました

夏祭りでは、卓球大会やダンスをしました。卓球大会では一回戦で負けたけど楽しかったです。ダンスは少ない回数の練習で踊って覚えました。本番で上手に踊れたのでよかったです。

ソフトボールは朝早く小学校で練習しました。合宿は折笠スポーツ広場で練習しました。合宿の練習試合で、自分はファーストランナーコーチの練習をしました。行田での大会ではファーストランナーコーチで試合に出ました。上里学園に勝ち、宿敵の雀幸園に勝ちました。決勝であゆみ学園と戦って負けました。とても悔しかったです。

夏休みは部活や学校、園の行事等でとても大変だったけど、とても充実した夏休みでした。

「バーベキュー」

小2 S・まこと

ぼくの夏休みで、いちばんたのしかったことはバーベキューです。8りょうのにわでやりました。いちばんおいしかったのは、牛ステーキです。こいけさんがやいてくれて、はしもとさんとたべました。あつくて大きくておいしかったです。

こうさかさんがつくってくれた焼きおにぎりもおいしかったです。その日はこうさかさんのたんじょう日でした。みんなで「おめでとう」といいました。

3月でやめた、ほりもとさんもきてくれました。くらくらしてからみんなではなびをしました。せんこうはなびのひの玉がかぜでおちちゃってきえちゃいました。はなびのあと、ほりもとさんがかえっちゃたから、ないちゃいました。またきてほしいです。

夏休みのいちばんの思い出です。



「料理」

小5 A・みさき

私の一番楽しかった思い出は、料理をしたことです。理由はいろいろな種類の料理が作れたからです。キムチチャーハンやコロッケやたまご焼きやあげぎょうざなどいろいろ作りました。

最初はどれも難しそうだったけど、作ってみたらどれもおいしくて、だんだん作るのが楽しくなってきました。それからどんどん自分の意見を言えて、どんどんチャレンジしていきました。コロッケはカボチャコロッケを作ったけど失敗することもありました。でも、食べる時はがんばった感がありました。油であげる時はチーズが入って

夏休みは、寮舎での企画や、招待行事、自分で楽しみを探すことなどもありました。

「なつやすみのおもいで」

小1 H・はるひと

ぼくのなつやすみで、いちばんのおもいでではむしとりをしたことです。

こどものまちのこうえんで、コクワガタとオオカナブンとあぶらぜみをつかまえました。

とつてもたのしいなつやすみでした。

いるとはねやすいと教わりました。最初はこわいと思いましたが、でもなれてくると、あげるのも楽しくなりました。

これからも作る料理は、ムリだなと思わないで自分から進んでチャレンジしていこうと思います。



「私の夏休み」

小 5 H・きょうか

私が、今年の夏休みで一番楽しかったことは、富山県に行って登山や色々な体験をしたことです。

一日目は来拝山(らいはいやま)に登りました。すごく急な山でとても疲れたけど、すごくけしきがよかったです。二日目はカルデラはく物館の見学とクライミング体験をやりました。カルデラはく物館では、昔の富山県のヒガイのことが勉強になりました。クライミング体験はとても大変だったけど、二つ上まで登りきれたのがうれしかったです。

三日目は立山(3015m)に登りました。すごく高くてちょっと怖かったけど、すごくたっせい感があって良かったです。四日目は日本一の高さの滝を見に行きました。すごい迫力でした。

新しい友達もできて楽しかったです。

中 2 K・麻衣

夏休みに心に残ったことがあります。

一つは景外出です。私たちは、千葉県にある木更津のアウトレットに行きました。私は行ったことが無かったのですごく楽しみにしていました。そこはたくさんお店があって、欲しいと思うもの

がいっぱいありました。私が買ったのは「服・靴・カバン」です。どれも割引で安かったです。私は普段行けない所に行って楽しんできたので、この夏一番の思い出になりました。また行きたいです。

二つ目は子供の町のお祭りです。私は、フランクフルト、かき氷、チジミ、ポテト、わたあめとたくさん食べました。色々な人と回ったり、話をしたりしてずっと笑顔でした。来年は今年よりもたくさん笑顔で楽しい毎日をご過ごしていきたいなと思いました。



～夏季活動を担当して～

エンジェルホーム指導員 西村 洋平

今年度から男児寮へ異動となり、昨年度とのギャップに日々戸惑いと新鮮さを感じながら子ども達と過ごし、早くも夏が終わろうとしています。

指導員として 2 年目を迎え、今年度は夏季活動小学 1 年生を担当し、柏の葉公園でバーベキューと水遊びとアスレチックをしてきました。

今まで行ったことのない行き先を開拓しようと色々な公園を調べ候補に挙げ、下見の際には、他の付添職員の方々に大変な思いをさせてしまいました。様々な方に相談しつつ何とかプランを決め、当日は子どもたちも楽しんでくれたようで、反省も諸々ありますが成功できたかと思えます。

初の担当業務を終え、改めて皆さんに支えられながら日々の仕事をこなしていると実感した夏でした。



子供の町あれこれ

春日部市藤の牛島地区に地域小規模児童養護施設「菜の花」を開設して3年目になります。私も月3回宿直応援に行くのですが、子どもたちが実に穏やかに暮らしているのです。これまで一度も「早く寝なさい!」とか「早く起きなさい!」など指示・注意・叱責をしたことがありません。その必要がないのです。勿論、毎日の暮らしを支えている職員2名・パート職員2名の丁寧な関わりがあってのことですし、家主さんでもある前施設長ご夫妻の見守り支援があればこそその賜物と思います。子どもたちも、市内陸上大会の選手に選ばれたり人権作文に選ばれたり、高校生は中間テストで数学97点を取りクラスで1番になったりと、実に伸び伸びと潜在的な力を発揮しているのです。

家庭的養護実践の試みは歩み出したばかりですが、生活環境・人的環境によって子どもたちの秘めている才能・能力が引き出される可能性が大きいことを実感しています。

8月27日「菜の花」の子どもたちと夏休み最後のお楽しみ企画として、野田市東金野井(車で15分)にある「ブルーベリー農園むらさきの里」(岩本農園)に行きました。幸いにも涼しい日となり、さわやかな秋の気配が感じられる農園で籠いっぱいになるまで完熟ブルーベリーを摘ませていただきました。たわわに実り、枝に手が触れただけでポロポロと落ちてしまうほど完熟していました。

○ 今年度から施設定員を変更しました。
子供の町 96名、
地域小規模施設「菜の花」6名

エンジェルホーム 87名

合計189名です。

平成18年頃に子ども同士の暴力的なトラブル・性的逸脱行動・反社会的行動などの背景に大規模施設特有の負の相乗効果・負の連鎖があることが認識され、子どもたちが生活する空間の環境改善(児童棟改築)と定員規模縮小化の必要性が大きな課題とされました。

定員規模縮小化は厚労省の家庭的養護推進計画の流れに先行するかたちとなり、経営的には厳しさが増す中でも「子どもの安全と安心できる生活環境を整える」ことを目的に推し進めてきました。

<1971(昭和46)年に子供の町が150名定員になってから2施設合計250名定員を継続してきました。>



H27 年 4 月～H27 年 8 月に寄付金、寄付品を頂いた方々(順不同・敬称略)

NPO 法人 あかり	島村 純一郎	ニュースキンジャパン&セカンドハーベスト
合気道練身会 春日部道場	菅原 美佐	農家支援倶楽部
アットホーム 佐藤 容	鈴木 美子	長谷川 浩一
荒木剛則	スミス悠悠	浜友観光株式会社
石垣 昌義	セカンドハーベストジャパン	(株)ヒイラギ
市川 美代子	瀬田工業(有)	(株)フィリップモリスジャパン
一般社団法人 露会館	相馬 一枝	ブルーベリー農園 むらさきの里(岩本)
今成 和仁	太平 内牧夢らんど	(株)マイコーポレーション
内堀医院	太平 かずかべ夢らんど	松原 祐子
大森機械工業(株)	太平 杉戸夢らんど	三井住友海上火災保険(株)
海谷 英子	太平 平方夢らんど	(株)みのや
金子 牧子	太平プレイランド関宿店	村山拓也
兼次 陽子	高山 繁雄	明治神宮崇教会 春日部支部
以心-It-It-It-It-It 新三郷店	竹澤 千恵	明治神宮崇教会 北葛飾中部支部
菅波 奈津子	千葉 正治	茂蘭庭 ゆかり
桑原 恵子	橋 正明	楽園 高越谷店
倉島 紀子	ときわ会	リスロンブライト株式会社
国際ソロブチミスト東京-銀座	中村製菓(中村信明)	匿名の方々
齋藤 道彦・貞子	(株)日本ワークシステム	

子どもたちのために、たくさんのご支援ありがとうございました

子供の町後援会からお知らせ

・ 明治記念館でのチャリティバザーですが、今年は、平成 27 年 11 月 16 日(月)に開催いたします。

後援会では、皆様の会費や寄付金・バザーの収益等で子どもたちの自立支援や進学支援を行っています。施設を出てからの生活基盤を準備することは、とても大事な事です。少しでも、子どもたちの不安を取り除いてあげたいものです。

また現在、3 名の大学生等が後援会からの奨学金を受けながら、自分の夢に向けて頑張っています。後援会の役員・会員の皆様、職員の応援は、とても大きな支えになっています。*

後援会へのお問い合わせ 事務局 TEL 048-746-0206

*子供の町のホームページを開設しております。是非ご覧ください。

<http://kodomonosachi.jp/>